

円満想続の3K「感謝・絆・供養」

月刊ニュースレター

想 続

Vol.9 (2011年6月号)

発行：一般社団法人 日本想続協会

〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-4-1 岡野ビル 4F

TEL 03-3404-1225 FAX 020-4664-9664

E-mail info@n-sk.org (担当：内田)

☆定期購読（無料）をご希望の方は上記へどうぞ！

朽ちるものと朽ちないもの

こんにちは。想続塾・塾長の内田麻由子です。上智大学の公開講座「グリーフケア講座」（全12回）に通っています。グリーフとは悲嘆です。主に、大切な家族を亡くした方の心のケアについて学びます。

第5回講座は、日野原重明先生（聖路加国際病院理事長・名誉院長、上智大学グリーフケア研究所名誉所長）でした。日野原先生は、今年10月4日に100歳のお誕生日を迎えられます。22歳のときに1年の療養生活をしたことで、患者さんの苦しみがわかる医者になれた、とおっしゃいます。「ですから私は、医者や看護婦には、死なない程度の病気をしなさい、と言っているんですよ」（笑）。

「土の器」（坂田寛夫・著）は、膵臓癌におかされた坂田氏のクリスチャンの母親のストーリーです。自分のからだを脆い素焼きの「土の器」とし、この土の器の中に持っているいのちが神から与えられたものという信仰心が、痛みに耐える力を生じたといいます。死にたじろがなかった老婦人の信仰心とはどのようなものか？

日野原先生は、次のような聖書の言葉を教えてくださいました。

あなた方を襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。

神は真実な方です。あなた方を耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、

試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていて下さるのである。

(コリント人への手紙(1)10・13)

また、骨萎縮症の婦人から俳句を贈られたことを機に、これまで実践してきた「音楽療法」に加えて、「俳句療法」を今後のターミナルケアに取り入れていきたい、とおっしゃっていました。「俳句療法」は、とっても良いアイデアですね。日野原先生こそ、正真正銘のベンチャーです。患者さんにとって良いと思ったことは、どんどん挑戦していきます。

「朽ちるいのち」とは、時間の経過と共に終わりが来る、「水平」の生き方です。「朽ちないいのち」とは、天を仰ぎ神に感謝する、「垂直」の生き方です。人はみな、老い、病み、死んでいきます。日野原先生は、「人生の最期に、ありがとうと言って死ねるかどうかだ」といいます。

松原泰道禅師は、キリスト教は天の宗教、仏教は地の宗教と書いていました。キリスト教では、人は亡くなると天に召される、つまり垂直ですね。仏教では、お釈迦様が衆生の手を引いて此岸（しがん）から彼岸へと渡してくださる、つまり水平なんですね。どちらがよい悪いということではありません。行き先は、天国でも彼岸でもいい。信仰は、病の苦痛と死の恐怖を和らげ、最期の時まで人に希望を与えることができるのです。そして、愛する人の死後いつまでも朽ちない”いのち”を相続することも…。

(税理士 内田麻由子)

～ ☆ ～ ☆ ～ ☆ ～ ☆ ～ ☆ ～ ☆ ～

相続&想続を楽しく学ぶ『想続塾』を、赤坂区民センターにて、毎月開催しています。ご夫婦や親子、お友達とどうぞお気軽にご参加くださいね！詳しくはご案内チラシにて。

★6月30日(木) 14:00~16:00 第9回想続塾

「本当の相続とは ～父母恩重経を読む」 仏教講師 岡本一志 氏 (おかもん先生)